研究報告

ドイツ文学研究検索システム構築ならびにドイツ文化社会誌資料データ入力

学習院大学文学部教授　轡田　　收

研究の概略

本年度の研究計画としては、1．研究検索システム構築と、2．資料データ入力を目的としていた。

1．学部学生がレポート・論文を書く際の、インターネットの有効な使用方法

基礎演習Ⅰ，Ⅱ

学部段階講義・演習レポート

卒業論文執筆ガイド

と、レヴェル別に、レポート・論文作成に際しての文献資料検索方法と、執筆要領を載せる。

特に卒業論文文献案内には、コメントをつけて載せることとする。

さらに、情報検索方法のガイダンス。

（サーチエンジン等、インターネットの使い方の技術的案内）

利用価値の高いドイツ語データ・ソース

エアランゲン大学、ウィスコンシン大学等のＨＰに関して、役に立ちそうな項目をピックアップして、日本語でガイドをつける（例を挙げて、検索の手順を紹介）

時事ドイツ語の読み方についての案内（ミスターチェック）（中級以上）

ＩＤＳ（マンハイム［ドイツ語研究所］）紹介

ドイツの大学・研究所などの日本語ＨＰ紹介（ハレ大学、ドイツ・ドット・コム、ＤＪＩ［ドイツ日本研究所］、www.japan.deなど）

2．ドイツのいくつかの都市の特徴を示す写真図版の読み込み

特に世界文化遺産に指定されているクヴェートリンブンルク（Quedlinburg)等を含め、観光案内とは違って、季節、祝祭等に関して、地域文化に結びついた光景を中心に、作品解読をはじめ、文化社会誌的観点から使用に耐えるものを取り込む。

スキャンした写真図像データは、とりあえず都市別に分類して公開。希望者は自由に閲覧できるようにする。

以上の実行に当たったが、当初予想した以上に、協力スタッフが必要であったにもかかわらず、

現今のドイツ文学専攻大学院生の減少がネックとなったほか、学習院ホームページの組み替えのため、掲載表示方法を決めることが延滞した分、現段階では、当初予定の半分程度しか達成しておらず、次年度計画に組み込まざるをえなくなったのが、きわめて残念である。

計画遂行手順

Ⅰ 資料検索

上記の１．に関しては、現在までの段階で下記のような構想がまとまっており、秋学期開始とともに、実際に学生モニターを募集して、その使い勝手を検討して、本格的に組み込む予定である。

当初は、夏季休暇以前にまとめ上げ、卒業論文執筆学生の意見を聴取しようと思っていたが、計画に参加した院生の留学と重なり時機を逸してしまったので、この効用の確認は１年度遅れとなった。以下は、掲載予定の草稿である。

インターネットによるレポート及び論文執筆のための資料検索法

ここでは、基礎演習の発表、あるいはレポート作成、卒業論文の資料収集に役立つＨＰを紹介します。

第一に、資料検索の前に、注意しておかなければいけないことがあります。

まず、インターネットでみつかる、いわゆる資料は、すべてが確実であるとはいえないので、確実なソースにあたることが大切です。ということは、公式機関のサイトに掲載されている記事ないし資料であれば、確実性があるでしょうが、個人が開いているＨＰの中には趣味的なものが少なくなく、学術研究資料としての的確性が疑わしい場合が散見するからです。

さらに大学の当該ＨＰあるいは、新聞雑誌等の記事があげられますが、こういった資料サイトはじつに膨大なので、有効なソースに行き着くまでにはある程度の馴れと勘が必要ですし、ドイツを中心とするサイトを経て資料を獲得するには、それ相応の「術語」(Terminologie) の知識が必要です。

以上のことを踏まえた上で、有益な検索をしてください。

《基礎演習編》（１、２年生用）

☆テーマを決めたら、最低次のようなところで基礎的な事柄を把握しておきましょう。

＜文献＞　研究室に学生閲覧用として、相当部数常備しています

「ドイツの実情」　ソシエテーツ出版（新しいものが数年おきに出版されます）

「現代のドイツ」　加藤雅也　他著　大修館書店　1998年

Ｄｅｕｔｓｃｈｌａｎｄ（日本語版）隔月刊

＜日本語サイト＞時事問題についてなら新聞社のHPなどでも調べよう。

◇朝日新聞社（ＤＮＡ:学内からのみ）

http://www.glim.gakushuin.ac.jp/gul/gaibudb/gaibu-index.html

（左欄の＜新聞記事を探す＞の中の項目参照）

◇毎日新聞

http://www.mainichi.co.jp/

◇共同通信社

http://www.kyodo.co.jp/

◇毎日新聞

http://www.nikkei.co.jp/

☆関連文献を図書館などで探しましょう。

◇学習院大学図書館（GLIM OPAC）

http://glim-ir.gakushuin.ac.jp/limedio/index-j.html

◇国立情報学研究所　（NACSIS Webcat）

http://webcat.nii.ac.jp/

書籍検索結果に他大学所蔵のページがでてきますから、本学にない場合、大学図書館に申請すれば、図書ないしコピーを送付してもらうことも可能（有料）。

《もう少し詳しく調べたいのなら（３年生以上、あるいはある程度のドイツ語力のある学生）》

＜ドイツ語サイト＞ドイツ語のサイトに入ったら，Ｆｏｎｔの切り替えを忘れずに！

◆　ベルリン自由大学のHP.（FU Berlin）

http://www.ub.fu-berlin.de/internetquellen/fachinformation/germanistik/autoren/

著者名検索のページです。かなりたくさんの作家をカバーしています。

1．AからZまで、探したい著者の頭文字をクリックしましょう。たとえば、Hをクリックすると、Hから始まる著者名がずらっとでてきます。

　お目当ての作家、たとえば、Heinrich Heineをクリックします。

2．すると、テーマごとにいくつかのＨＰアドレスがまとめられていますので、その脇に添えられた説明を頼りに、自分が知りたいことが見つかりそうなアドレスをクリックします。中には、

期待はずれのものもあるかもしれませんが、いろいろと試していくことによって、何が使える情報か、見極められるようになると思います。また、比較的マイナーな作家の場合は、直接当該のＨＰにリンクしている場合もありますので臨機応変に対処してください。また、いわゆる古典的な作家だけでなく、最近の作家や、文学批評家の名前もありますので、本ではつからなかった作家ないしは批評家の情報が集められます。場合によっては期限切れで見つからないページもあるかと思いますが、とにかく一度チャレンジしてみてください。

◆ ウィスコンシン大学のＨＰ

http://polyglot.lss.wisc.edu/german/irfg/#personen

ベルリン自由大学ＦＵには及びませんが、ＦＵより見やすい著者検索があります。
また、テーマごとのＨＰ紹介があります。

1．このページ上部のワクの中の２にAutorenの文字がありますので、著者検索をしたい場合は、そこをクリックし、ページ下の著者一覧でお目当ての作家名を探しましょう。ここには、ベルリンＦＵにリンクがはられている作家もあります。その場合は、上記を参照してください。
2．また、テーマで探したい場合は、２のAutorenの横の、andereをクリックしてください。
　文学史、映画、抒情詩、などいくつかのテーマがあり、それに関する説明もいくらかありますので、その中で興味のあるテーマをクリックしてください。
　特に、文学史（Literaturgeschichte）上の時代区分ごとのページにもリンクが張られていますので参考にしてください。
　自分でリンク先を見つけるのが一番ですが、一応、ここでもその２つのＨＰのアドレスを紹介しておきます。

http://home.snafu.de/mcthree/literatur/index.html

　最初のページにEpochen、Biografien, Register, Linksの4項目が出てきます。Epochenをクリックすると、750年から、1989年までのドイツ文学史の時代区分のページにリンクします。例えば、Realismusをクリックすると、時代の特徴などが簡単にまとめられています。最後には、代表的な作家の名前と作品があげられており、場合によっては、リンク可能です。
　その他、最初のページのRegisterをクリックすると、人名検索が可能です。自分でいろいろ試してみて、有益なページを探しましょう。また、Linkのページにもいろいろなｈｐが紹介されているのでさらに情報を集めたい場合はそこから道を探すこともできます。

http://www.uni-essen.de/literaturwissenschaft-aktiv/einladung（エッセン大学のＨＰ）

最初のページのVorwort（まえがき）の中の真中あたりに、Indexの文字があります。ここをクリックすると、アルファベットが並ぶページが出てきます。知りたい人名、文学史上の用語の頭文字のアルファベットをクリックしましょう。

例えば、Expressionismus（表現主義）の項目でしたら、Ｅをクリックし、出てきた一覧の中からExpressionismusを探し、クリックします。するとそれに関して説明が出てきます。場合によっては、その時代の代表的作家や前後の時代の傾向などにリンクがはられていますので、必要に応じてクリックしてください。

◆　エアランゲン大学ドイツ文学科のＨＰ

http://www.phil.uni-erlangen.de/~p2gerlw/ressourc/liste.html

1．８つの項目に分かれていますが、その中のEpochen（左２段目）をクリックします。
2．左に、文学史上の時代区分がされていますので、見たい時代をクリックします。
時代の代表的作家などが並べられています。分かりにくいですが、人名にリンクがはられていますので、活用してください。

以上は、ほんの一例です。まずはこのようなＨＰで、いろいろと調べ、さらに自分でも使えるページを開拓していってください。

☆その他検索のために便利なサーバー

◇　Yahoo! Deutschland　：読むにあたいするサイトがある程度絞られています。ドイツ語のみ。

http://de.yahoo.com/

◇ AltaVista

http://de.altavista.com/

◇　Google：指定したキーワード全てが機械的に検索されます。いろいろな言語を一度に検索できます。現在のところ、もっとも性能のいい検査エンジンです。

http://www.google.co.jp

からでも、ドイツ語サイトに行けないことはありませんが、自分で使用言語指定をして、別個に

http://www.google.com/intl/de/

を作っておくと便利でしょう。

前頁の他まだまだ検索エンジンはありますが、特にgoogleとyahooの特徴（くせ）をのみこんでおくと、より早く目的にたどり着くことができます。

また、以下、資料検索の際のヒントを挙げておきます。

● キーワードの入れ方

一般の検索エンジンで探すときには、ヒットが多い場合２語以上のキーワードが有効。絞り込むためのキーワードがみつからない場合、百科事典などを活用する。

ドイツ語の語尾変化は変化形しかヒットしないので、語幹のみで検索する。

たとえば、deutschではなくdeutscheと語尾をつけておくとそれだけ選択幅が限定されてきます。

● 資料はどこにあるか

・一般のＨＰにあたる場合には、そのテーマのリンク集になっているページを見る。
（有効なページがみつかる可能性が高い。）

・ヨーロッパの都市については、かなり小さな町にいたるまで、自治体等が詳しいサイトを開いている。

たとえば、トーマス・マン（Thomas Mann）の生地リューベック（Lübeck）の様子を調べたいなら、

http://www.luebeck.de/

と入れるだけで、そのＨＰが現れる。

・役にたちそうなＨＰをみつけたら、ブックマーク（お気に入り）に登録し、後で整理する。

・ドイツ語のサイトで文字化けする場合は、［表示］で［文字コードセット（エンコード）］を

［欧米（西ヨーロッパ言語）］を指定する。

● インターネットソースの挙げ方

・新聞などの記事を利用する際は、新聞名、発行年月日、ページ数を明記すること。

・インターネットソースの情報は、アドレスと共にソース名を出典としてあげておくこと。
（ネットの情報は一定期間が過ぎると消去する場合がよくある）

付 論

授業への反映

報告の当該年度ではないが、２００２年度は、たまたま基礎演習Ⅱ丙（ドイツ語圏文化社会誌）を担当することになったので、学生の報告結果をＨＰに掲載することにした（ドイツ文学科の授業時間割にリンク

http://www.gakushuin.ac.jp/~750107/e-semi/index.htm）。

それにともない、授業時の発表報告ではプロジェクターを使用するだけにして、資料配付は行わない。欠席者にはデメリットであろうが、資料配付を取りやめたことで、学生の集中度はかなり高まっていることが、各時間の終わりに提出（義務）させているコメントから知られる。

また、報告結果の掲載は、授業の公開の意味もあるが、のち（たとえば、次年度）の学習のためのスプリングボードの役割も果たすものと考えている。

このほか、学生は任意に内外の報道記事から、ＥＵ関連の重要事項を授業担当者にe-mailで提出するようにしている。送付に当たっては、記事は原文のママをＷＯＲＤファイルで添付。ソースの記述はできるだけ詳細に行う習慣をつけている。こうして集められた記事事項は、学内閲覧の限定付きで、基礎演習コーナーに月別に集積している。

Ⅱ ドイツのいくつかの都市の特徴を示す写真図版の読み込み

この項目の実行に関しては、概略欄に記載した程度しか進行していない。

こうした遅滞の反省点は、綿密な実行計画を立てずに、データを読み込みさえすれば、あとで適宜処理できると考えていた「あまさ」にあった。まさに技術的な予測が未熟であったことを思い知らされた。たとえに使っては申し訳ないが、ドン・キホーテぶりをさらけ出してしまった思いである。

他山の石となるべくして付け加えるならば、こうした画像資料を構成しようとするならば、画像選択にならんで、資料の流れを考えるとともに、キャプションを作成しておかなければならないのである。私の場合、資料の量を考えて、まずそれの読み込みを間に合わせなければならないという焦りが失敗の最大原因だった。この始末は構想を立てた者しかできないわけで、時間との戦いになってくる。じつに頭の痛いことである。

以上

＊ なお、以上の研究プロジェクトの協同研究者は高瀬誠非常勤講師と平井敏雄助手であり、遂行にあたっては、本学大学院ドイツ文学専攻院生の、柴田隆子、石崎朝子、橋本由紀子の諸氏の協力によるところが大きい。